

大池公園土壤調査研修会実施報告レポート

(つくば市、(一社)いばらき樹木医会共催)

実施日程: 令和7年(2025年)11月8日(土)9:00-16:50

施会場: つくば市大池公園、つくば市民研修センター

北条大池の桜(ソメイヨシノ)は、桜の名所として長年地元で大切にされてきましたが、令和5年度、令和6年度の樹木診断結果等により、45本が不健全のため伐採となりました。今回の研修会は、国立研究開発法人森林総合研究所の高橋氏、保土ヶ谷化学工業(株)涌井氏、保土ヶ谷UPL(株)福島氏を講師に迎え(一社)いばらき樹木医会、つくば市で共催し、詳しい衰退原因を把握するため、土壤調査方法を学び、桜の更新について検討しました。また保土ヶ谷化学工業の土壤酸素濃度維持による樹勢回復や土壤団粒化促進が期待されている酸素供給資材や樹木の活性化が期待されているリン溶解菌の土壤改良剤について学び、対象地での効果検証や、桜の名所での対策方法について理解を深めました。

土壤断面調査



土壤断面調査を行い層位、土色、土性、構造等を調べたり、長谷川式土壤貫入計で土壤硬度を測ったり、根系の状況を確認し、桜の衰退原因を検討しました。

施肥効果検証試験(既存ソメイヨシノへの施肥)



酸素供給資材やリン溶解菌を施用し、樹勢回復や花芽増加効果の継続調査を行っていきます。

施肥効果検証試験(新植ソメイヨシノ施肥比較)



ソメイヨシノを3本の新植に施肥を行い、活着や根系伸長具合、花芽数等にどのくらい効果があるのか、継続調査を行っています。

北条大池桜更新についての検討会



土壌調査結果から衰退原因について検討したところ、堰堤機能維持のための土壌固結や地下水位が桜の成長限界に影響しているため、対象地にあった適度な土壌改良を検討し、定期的な更新が必要になるとの見解がありました。更新樹種については線的な景観が大切な場所については開花時期や花色が同じ方が見栄えがするため、既存樹と同じソメイヨシノが良い、それ以外の場所ではジンダイアケボノ等の樹病に強い品種もいいのか、目標植栽間隔については、既存樹形を目安とし植栽間隔は7m～9m程度を目標とし、更新時に検討していくことが望ましいとの意見がでました。

今後の予定

令和10年度(2028年)頃を目安に施肥の効果検証を行います。

令和8年(2026年)秋以降に効果検証状況を踏まえ、既存桜への施肥や新植(本数未定)を検討していきます。

